

Konko Osaka

光輝

第23号
金光大阪中学校・高等学校
同窓会

【編集発行】
金光大阪中学校・高等学校同窓会
〒569-0002
大阪府高槻市東上牧1丁目3番1号
TEL (072) 669-5211
FAX (072) 669-5214
URL <https://www.dosokai.ne.jp/konko-osaka>
【印刷】
タツミ印刷株式会社

同窓会発足40周年に向けて



再来年の令和六年（二〇二四年）は金光大阪中学校・高等学校同窓会発足40周年にあたります。そこで同窓会としましては同年に何らかの催しを開きたいと考えています。詳細は役員で検討し、次号でお知らせいたします。

写真は三十周年の記念祝賀会から（平成二十六年（二〇一四年）十二月 体育館にて）



同窓会総会案内

今年はコロナ禍のため、母校文化祭開催も詳細検討中ではありますが、同窓会総会は中止の予定ですが、ここから劇的に改善すれば別ですが、今の段階では難しいと考えています。

詳細については、学校の対応に合わせて同窓会公式HPでお知らせいたします。

目次

◆ 同窓会総会案内……………1 P	◆ 部活動今昔……………6 P
◆ 会長挨拶・校長挨拶……………2 P	◆ 「陸上競技部」……………7 P
◆ ☆キラリ卒業生☆……………3 P	◆ 「女子バスケットボール部」……………8 P
◆ 吉見一起(19期)さん……………3 P	◆ 卒業生の皆様へ……………9 P
◆ 甲子園名場面……………4 P・5 P	◆ 「がんばれ！卒業生」……………10 P
◆ 野球部について(櫻井先生)……………6 P	◆ BarSalud……………11 P
◆ 祝！悲願の初勝利！……………12 P	◆ 編集後記……………12 P

「会長挨拶」

同窓会会長

なかじ ひふみ
中路 一二三

金光大阪中学校・高等学校同窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

いつも、同窓会会員の活動へのご理解、ご協力を頂きまことにありがとうございます。

今年度もコロナ鍋のなか、一定のルールを守りながらすっきりとした活動にありま

す。今年度は金光大阪中学校・高等学校同窓会として大きな出来事がありました。

一つ目は野球部の甲子園出場。二つ目は西村校長先生のご退職されたこと。

甲子園出場時には現地での応援だけでなくテレビを通じて、全国にいるOBの皆様のご感動とを感じる事ができ、影響力の大きさに驚きました。

同窓会としても、確実に新しいつながりが発生している事を確認できこれからの活動や行事に繋げていけるのではないのでしょうか。

自身は野球部の一期生のメンバーとして同じグラウンドで練習した事、野球部の歴史の少しの間でも関わった事を誇らしく思います。

何よりも根気強く指導されたすべての関係者に感謝申し上げます。

令和三年度をもって西村校長先生はご退職されました。西村校長先生には今まで同窓会の活動の上に、ご理解、ご協力頂きましたこと、感謝しています。

四月から着任された津本新校長先生のもと、魅力ある学校へと変化し活性化していくなか、同窓会もこの変化に対応し、新たな金光大阪同窓会として成長できればと思っています。

また、同窓会にとっては初期の頃から同窓会幹事としてお世話になった浦田先生（現在も教壇に立っておられます）に続き、保健室を長年守ってこられた羽田先生も令和四年三月で定年退職されました。羽田先生は私を同窓会会長に強く推薦して頂きました。退

職されてからは学校で用事を済ませてから保健室に行くことが無くなり、母のいない実家に帰る様な感じになっていきます。

これからも恩師として相談に乗って頂けるでしょうし見守ってもらえると嬉しいです。令和六年に予定している40周年の準備を進めていきます。皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



「ご挨拶」

金光大阪中学校・高等学校

校長 津本 佳哉
つもと よしや

同窓会の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育振興並びに同窓会活動にご理解、ご協力賜り厚くお礼申し上げます。

本年度四月一日より、前任の西村校長の後任として、校長職を拝命いたしました。皆様方が築いてこられた本校は、今年41年目を迎えています。微力ではございますが、本校発展のため職務を全うする所存ですので、何卒、宜しくお願い申し上げます。

さて、今春の選抜野球大会に際しまして、物資両面にわたる温かいご支援をいただき有難うございました。お陰様で、ベスト8という結果も然る事乍ら、チーム金光として一体感溢れる応援が出来たことが、この上な

い喜びです。

そうした中、準々決勝の近江高校戦終了後、応援に来てくれていたある卒業生（女子）から、次のメールをいただきました。

「よく頑張りました。努力は報われる事だけが重要ではありません。素晴らしかったです。悔しい気持ちを、また次に繋げていつてほしいですね。ここまで戦えたことを誇りに思います。恥ずかしいですが、泣きながらぼーとして買い物して帰ります」

在学中は、野球どころか、スポーツに全く関心の無かった生徒ですが、この一文に、卒業生全員の「想い」が込められているように、敗戦の悔しさよりも、金光大阪の教師で良かった嬉しさの方が大きかったです。

開校40年が過ぎ、50年に向けスタート切ったばかりですが、これからの取り組みが、一回り成長した金光大阪を、皆様方にお見せ出来ることと考えております。より一層のご声援いただきますようお願い申し上げます。

是非、学校にもお越し下さい。

キラリ

卒業生

金光大阪高校十九期生の元中日ドラゴンズのエースで、現在母校の特別コーチの吉見 起さんにインタビューをしました。
(聞き手 丹羽)



—今回の甲子園の感想は？—

過去三回甲子園で一勝もできなかった。今回、特に引退して特別コーチとして携わることができたので良かった。僕が引退せずにベスト8にいくのと、引退してベスト8にいくのとでは思い入れが違う。知っている子たちが甲子園球場の中で躍動していたので嬉しかったです。

—「親の気持ちになった」とコメントにありましたか？—

生徒たちとは年が約20歳違うのです。自分の子どもが試合で投げている感じでドキドキしながら見ていました。リラックスして見ることはできなかったですね(笑)

—ご自身の甲子園の思い出は？—

運良く一年生からメンバーに入り、指導者の先生方と出会って先輩方、特に三年生の辻

原さん(エース)には、大変可愛がってもらいました。一緒に練習する中で、自分の能力が上がついていき甲子園に出場することができ嬉しかったです。

試合当日は、雨が降っていた。上手く調整できず調子は良くなかった。正直楽しめなかった甲子園でした。これは生徒にも伝えました。「マウンドに立つ。打席に立つ。打つ打たないは別にして、どうせなら楽しんで方がいい」と経験談として伝えました。

—学生時代、横井先生からの指導で印象に残っていることは？—

抑えつけられて練習させられているチームだった。面白くないと潰れていたと思います。厳しい中に遊びも入り楽しかった。年も十歳くらいしか離れていないので正直「お兄ちゃん」みたいなでした。楽しくやりやすい環境を作ってもらいました。

—生徒に伝えたかったことは何ですか？—

エースの古川君には「君が引つ



グラウンドに華麗なフォームが甦る!

張っていくんだ。君の姿・発言・行動は全て見られている。責任を持つて行動しなさい。古川が不安そうな顔をしていたら周りにも伝わるし堂々としなさいと伝えました。みんなには、初めて話をした時に「なぜ野球をするのか?」しつかりした目標がないと人間は向かっていけないし、ボヤッとしていると失敗しても何も思わない。目標がある中で、何をすべきかを気づいてほしかったので「なぜこの学校で野球をするのか?」を伝えました。



古川君に指導

—野球部の練習でバッティング投手をされたきつかけは？—

プロアマ規定で資格を回復すれば高校生と携わることがができる。指導することができ人はいるが、投げられる人はそうはいないと思う。僕が現役を引退してすぐだったので投げさせてもらった。

150キロを投げる高校生には速さは勝てなくても、ボールの質、コントロールも含めた変化球の質は、まだまだ高校生には負けていない。僕のボールを見てもらってどう感じてくれるのか?それと、僕のボールを打って自信をつけてもらいたかった。何かのキッカケになればいい

と思ったので投げさせてもらっただけです。

—プロとして十五年間現役を続けてこられての振り返り—

エースという場所まで行き、怪我をして軍で投げられない等、色んな経験をすることができた。どっちにいても幸せだと思えることはなかったです。野球を好きだから職業にできた。夢を与えられる仕事だと気づいたので、応援してくれるファンの為に野球をしていた十五年でした。しんどい、辛い十五年でもありました。

—怪我也たくさんあった中で、そこから感じたことや学んだことは？—

身体のケアはしてきたが、怪我をしてしまった。怪我をしたことでパフォーマンスが上がることは無かったですが、色々な野球を見ました。一軍の大事な試合で投げる。これを失敗したら二軍に行かされる。一軍に上がる為に二軍で投げる。若い子たちと野球をする。怪我をしたことが良かったとは言えないですが、色んな所を見れた十五年だったので、これからの人生に生きてくると思っています。

—野球をする中で一番大切にできたことは？—

「準備」です。そこがないと自信もつかない。しつかり準備をして失敗すれば何がダメだったか出てきます。準備をせずに失敗すると、何がダメだったかもわからず後悔しか残らない。準備して失敗したら仕方

がないと思える。準備は特に大事にしていました。投げる日だけではなく、一週間の中で、例えば治療院に行く、ちよつと足りないと思ったことは練習する等です。

—同窓会員へのメッセージ—

人生楽しんだもの勝ち。人生いつ終わるかわからない。時間があれば母校に足を運んでほしい。他のクラブも強くなっているし、当時とは変わっている所もたくさんあると思うので、足を運んでいただいて当時の思い返してほしいです。



横井先生と野球談議



YouTube
吉見一起
コントロール
チャンネル



甲子園名場面



16時00分 市和歌山 - 大阪桐蔭 13時30分 国学院久我山 - 星稜 11時00分 近江 - 金光大阪 8時30分 浦和学院 - 九州国際大付 準々決勝 1塁側 3塁側 第9日	14時00分 高知 - 国学院久我山 11時30分 木更津総合 - 金光大阪 9時00分 近江 - 聖光学院 1塁側 3塁側 第7日	14時00分 高知 - 東洋大姫路 11時30分 日大三島 - 金光大阪 9時00分 山梨学院 - 木更津総合 1塁側 3塁側 第3日
--	--	---





元教員の先生方も応援に駆けつけてくださいました！



たかし
松本 尚 先生



あきひさ
織 見久 先生

開校二年目から勤務されている野球部長の櫻井富男先生にインタビューをしました。
(聞き手 丹羽)



―開校四十周年の年に甲子園出場のご感想は?―

初めて甲子園に出た時、京都の甲子園常連校の校長先生が「甲子園のアルプススタンドが非常に良い同窓会の場になるんだ」と言われた。試合の前後に沢山の卒業生達が顔を合わせ恩師の所にも挨拶に来てくれる。非常に良い同窓会の場になるとお聞きして、本校のアルプスもそうなれば良いと思いました。四十年経つと年の差四十歳のOBがスタンドに自然と集まって来てくれて良い同窓会の場になったのです。それが一番嬉しいです。

―近江高校の監督が「金光大阪のファン」と勝利監督インタビューで言われていましたね?―

うちの特徴でもある百人部員がいたら同じように練習をさ



せる。全員でノックもすれば、全員にバッティングもさせる。多少、各班や、レギュラーとそうでない子で時間が変わることもありますが、そういった指導体制、全員で相手に向かっていく「全員野球」。全員同じように指導する横井先生の指導方法を見て「あれが本当の高校野球だ」というふうに思ってもらえたと思います。試合後に、「横井監督の野球のファンなんだ。あれがザ・高校野球」と仰っていただけなんです。ありがたかったです。

―高野連の会長からも声をかけていただいたそうですね―

本当ならアルプス席を各学校で一杯にしたい願いはあると思う。コロナ禍で地方の学校が全校生

徒を呼ぶことは難しい。その中、関西、特に大阪、兵庫は近いのでリミット一杯の数のチケットを学校が購入を許可してくれましたので、在校生はもとより野球部OB会、他の卒業生も来てくれ一体になって吹奏楽の演奏に合わせて一緒に応援してくれました。その地の利があった。主催者側からしてもTV写りも良い。アルプスが一体になって勢いのある応援をしている。学校が二つになっている所を高野連会長が「金光さんのスタンドは高校生らしくて良い応援だ」と褒めてくださるそうです。

―二回戦の木更津総合戦は応援の力が凄かった―

横井先生も言っていましたね。相手の右投手は、うちのアルプススタンドを正面に見ながら投げることになる。ボールが増えるとプレッシャーがかかる。甲子園ではスタンドの力でグワッと勢いが出るのがよくあるんです。タイブレークで先制された時は、「ここまでか」と思う所もあった、あれよあれよで同点から逆転になった。

最後、ダッグアウトで横井先生がステップの上、私が少し下がった所について福富にデッドボールが背中中に当たった瞬間、「勝ちだった。こんな試合あるのか?」と顔を見合わせました(笑)

―初勝利のウイニングボールをもらったそうですね―

私も今年六十二歳になりました。ここ三、四年ぐらい前から練習後、クラブハウスで横井先生と「もう一回、甲子園に行きたいな。もう一回連れて行ってくれないか」と話したりしていました。私がいない所で新チームスタート時に選手達にチームの目標と一緒に「櫻井先生をこのチームでもう一回甲子園に連れて行ってやる」と言ってくれていたようです。秋の大会で準優勝、近畿大会でベスト4に入って選抜出場が決まって二勝してウイニングボールを櫻井先生にあげようと彼らが話してくれていたようです。日大三島戦後の夜の宿舎でのミーティングで監督、コーチ陣の話に続いてキャプテン岸本が立ち上がり「先生、これ受け取ってください」と渡され、目頭が熱くなりました。「四十年目の年での一勝、これは横井先生に渡すべきではないか」と言いましたが、キャプテ

ンが「次、二勝目を横井先生に僕たちは渡します」と言ってくれた。ありがたく受け取り、我が家に飾ってあります。

―同窓会員へのメッセージ―

本校も四十年経ちました。開校二年目からお世話になっていきます。奉職以来、野球部の顧問をさせてもらって、今回甲子園ベスト8という所までいけた。同窓会の皆さんに本当に声援をいただいて感謝を申し上げると共に喜んでもらったことが本当に嬉しいです。たくさんOBの先生からも感謝の電話やお便りを頂戴しました。本当は、私も横井先生もアルプスに行ってお礼を言えれば一番良いのですが中々できません。

卒業生の皆さん、OBの教職員の方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。



部活動 今昔

今回は、陸上競技部と女子バスケットボール部取材しました

陸上競技部

今

陸上部顧問
谷田 恵子 先生

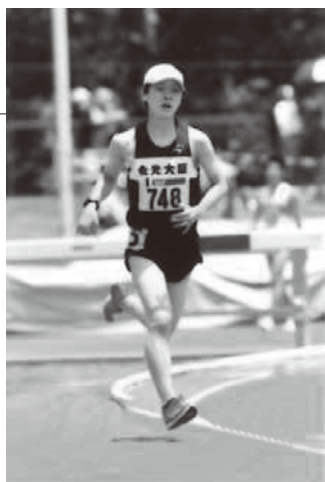
陸上競技部は24名在籍、現在は3年生が引退し、1・2年生18名を中心に活動しています。

ここ2年ほどは新型コロナウイルス感染症の影響で、公式戦が中止や無観客試合となつてしまい、チームメイトや友人を応援したり、強い選手の観戦をすることもできませんでした。各自、出場種目の2時間前に競技場へ来て、走り終わったら速やかに帰るルールだったので、お互いに応援しあうということができず、寂しい限りでした。最近やっと、徐々に入

場制限が緩和され、応援や観戦ができるようになってきました。

先日、インターハイ地区予選会を突破し、大阪インターハイに2年生の井上泉希君が3000m障害に出場しました。結果は残念ながら予選敗退したものの、自己ベストの走りを見せてくれました。

今後は予選突破を目指すのはもちろんですが、各自が自分の限界まで頑張り、仲間意識や協調性を育みながら、日々練習に励みたいと思います。今後とも応援よろしくお願いします。



陸上競技部

昔

21期生
中村 信也氏
(元陸上競技部員)

金光大阪高校21期生の中村信也と申します。私が在学中は陸上競技部に在籍し、主に800mを専門に取組んでいました。

皆さんは陸上競技について、どのような印象をお持ちでしょうか。「走るだけで何が楽しいの?」このような厳しい言葉を良く耳にします。他のスポーツのように「走る+投げる」「走る+蹴る」といった複雑な動作はなく、ただシンプルに「走る」のみで0.01秒の記録を競います。しかし、シンプルが故に難しい点もあり、どれだけ厳しい練習を積んでいても、怪我や精神的な状態によっても記録が左右されてしまいます。だからこそ、記録を更新できた時の達成感や喜びが大きな魅力的なスポーツです。

私が入部した2002年、陸上競技部は17名在籍しており、短距離・長距離がそれぞれのパートに分かれて練習し、学校内のロータリーや淀川の河川敷を主な活動の場としていました。先輩・後輩の壁がなく、和やかな雰囲気でした。

していたところが特徴的でした。特に印象に残っている練習は、年末最後の恒例練習「30km走」です。年明けに出場する駅伝に向けた持久力強化が目的で、短距離・長距離のパートが合同(部員全員)で、多くのOBに見守られながら、「全員走破」を目指す一大イベントでした。30kmの道のりは、長距離を専門に取組む部員であっても、普段と異なるペース配分や忍耐力が必要で、私個人としても苦手を練習でした。どれだけ辛くても、当然のことながら誰かが「代わりに入る」ことは出来ません。

しかし、完走した部員は、全員が完走するまでその場を離れずに応援し、ペースが落ちている人に対してはペースメーカーとして先導しながら「一緒に走る」サポートを行いました。今思えば、30km走は持久力強化の目的がありつつも、目標に対して「一人が全体」に、「全体が一人」に何が出来るのかを考え実行する学びの機会を与えて頂いたのだと思います。

全員が走破した時の喜びを、部員全員で共有出来たことがとても懐かしい思い出です。



※二列目真ん中



※右から一番目
(写真部に撮影して頂きました)

女子バスケットボール部
今
上澤健史先生

現在女子バスケットボール部は、中学生4名、高校生19名、合計23名で活動しています。チーム名は「Zealous Mariners」。意味は「熱心なカジキ」です。リバウンドを頑張り、スピードのある速攻のチームを目指しているため、5年前にチーム名を決めました。

ここ数年では、iPadを使用し、試合のスコアの分析をしたり、チームのインスタグラムを作成し情報を届けるなど、新しい取り組みも行っています。また、今年度からトレーナー契約を結び、選手のコンディショニング調整にも力を入れていきたいと考えています。

日々の練習では、真剣に取り組みながらも明るく良い雰囲気を取り組んでおり、クラブ活動を通じて、他人を思いやる心豊かな人間を育成することを理念としています。部員一人ひとりの性格、体格も違えば、得意なプレーも違います。

その「違い」を個性と捉え部員全員の長所を活かし、それぞれの役割を全うできるチームを目指しています。そのために、コミュニケーションを積極的

お互いに自分の気持ちを伝え、認め合いながら毎日楽しく活動しています。



女子バスケットボール部
昔
14期生
上仲基子氏

私が金光大阪高校に入学したのは、まだ金光第一高等学校という名称の頃でした。小学校から続けていたバスケットボールをするため、地元から少し離れた金光を選び、女子バスケットボール部に入学しました。当時は女子の人数が少なかつたため部員も少なく、一年生のころから試合に出る機会に恵まれました。中学時代はベンチにいたことが多かったのですが、高校では試合に出るチャンスが増えてとても嬉しかったことを覚えています。同級生には中学時代に選抜チームで活躍していた子もいたので、足を引っ張らないようにと放課後の練習が終わった後だけでなく早朝も時間がある限り自主的に練習に励みました。その時はとにかく自分自身が上手くなる事を第一に考えて黙々と練習していたので、今から思うともっと同級生とコミュニケーションをとっておけばよかったと残念に思っています。

学校生活ではとにかく勉強を頑張りました。教員になるのが夢だったので、2年次

から理系クラスに入り更に力を入れました。3年生の受験の時は、担任の笠原がつきつきで補習をしてくださったり、多くの先生方に援助していただきました。そのおかげで大学に進学することができ、教員免許も取ることができました。

その後、複数の公立高校などで勤務し、現在は大阪の府立高校で教壇に立っています。また部活動もバスケットボール部の顧問として指導を続けています。教育現場で意識しているのは、道具を使わずコミュニケーションをとることです。今は簡単なツールを使ってコミュニケーションをとることはできますが、その分誤解が増えるので、対面での時間をかけてお互いの思いをぶつけあう機会をつくることを大事にしています。これは自分自身の高校時代の経験から得たことで、とても大切なことだと思っています。振り返ってみると、金光で勉強も部活動も全力で向き合っていたからこそ今があり、また高校時代は私のターニングポイントになった時期でもありました。

くれた金光大阪、多くの方々に感謝をしています。また当時の女子バスケットボールの顧問、瀬口先生には、試合会場でお会いできる日を楽しみにしています。ありがとうございました。



前列一番左



写真中央

卒業生の皆様へ

入試広報部長 森田 充彦



同窓会の皆様におかれましては、日々各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日ごろから本校の教育活動にお力添えを頂き、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症がまだ収束に向かわず、皆様方も不安な日々を送られていることと拝察いたします。

そのような中でも皆様方にとっては、御自身の人生で最も多感な、しかも青春のひとつを過ぎられた母校が様々な場面で活躍し、成果をあげることは、非常に誇らしい気持ちになられる事だと思います。今年も本校の生徒諸君は、運動部のみならず文化においても活躍してくれています。進学の面に関しても、年々実績をあげまさに「文武両道」で頑張ってくれています。

さて、私たち入試広報部は、本校生徒の活躍を中学校や塾、様々な進学説明会等、あらゆる場面で広報活動を行っております。このような中でお目にかかった先生から、本校の卒業生であると告げられることもあり、大変うれしく思うと同時に、「頑張ってください」と思わず声をかけてしまいます。また、「金光大阪に子どもさんが通っている保護者の方から面倒見のいい学校だと聞いています。」や、「私も金光の卒業生で子どもをぜひ通わせたいと思う

ている。」というような事をよく聞かせて頂きます。

これらの言葉からも、卒業生の皆さま保護者の皆さまからの暖かい後押しを感じております。

同窓会の皆さまには、中学受験や高校受験を控えておられるお子様やお知り合いの方々に、金光大阪高校のことをお伝えいただきたく、令和5年度入試に向けたチラシを同封させていただきましたので、お声がけいただきましますようお願い申し上げます。

また本校の特待生制度につきましても掲載させて頂きます。特に卒業された皆様のお子様がご入学の際には減免制度がございますので併せてお知らせいたします。

(詳しくは、入試広報までお問い合わせください。)

今後の入試関係の行事

◎金光大阪中学校

・学校説明会

8月27日(土) 9時30分

10月2日(日) 9時30分

11月3日(祝) 9時30分

12月4日(日) 9時30分

・オープンスクール

8月27日(土) 9時30分

・プレテスト

10月2日(日) 9時30分

11月3日(祝) 9時30分

12月4日(日) 9時30分

◎金光大阪高等学校

・オープンスクール

8月20日(土) 9時30分

10月15日(土) 14時

・学校説明会

11月5日(土) 13時

12月3日(土) 13時

12月10日(土) 13時

12月10日(土) 13時

・個別相談会
12月17日(土) 9時30分

金光大阪高等学校 学習特待生制度について

種 類	内 容	学習特待基準	
		専 願	併 願
学習A特待	入学金全額(20万円)免除 +年間50万円を3年間支給	内申44以上または 入試で390点以上取れると見込まれるもの	内申45または 入試で420点以上取れると見込まれるもの
学習B特待	入学金全額(20万円)免除 +年間25万円を3年間支給	内申41以上または 入試で350点以上取れると見込まれるもの	内申43以上または 入試で380点以上取れると見込まれるもの
学習C特待	入学金全額(20万円)免除	内申36以上または 入試で300点以上取れると見込まれるもの	内申39以上または 入試で350点以上取れると見込まれるもの
学習D特待	入学金半額(10万円)免除	内申33以上または 入試で250点以上取れると見込まれるもの	内申36以上または 入試で300点以上取れると見込まれるもの

■入学金の半額減免制度

①入学志願者の兄弟姉妹が、
本学園の設置している学校に
在学中

②本学園の設置している学校
を卒業された方の子が本
校へ入学の時

令和4年度 同窓会会計予算(案)

	摘 要	令和4年度予算(案)
	令和3年度より 繰越金	15,542,598
収入の部	33期生 終身会費(中学)	20,000
	39期生 終身会費(高校)	1,405,000
	預金利子	100
	収入合計	1,425,100
	繰越金・収入総合計	16,967,698
支出の部	会誌印刷・郵送代	2,500,000
	同窓会HP管理・維持費	500,000
	同窓会総会費	500,000
	会報等取材費	300,000
	事務費	500,000
	弔慰金	50,000
	雑費・予備費	12,617,698
	合 計	16,967,698

令和3年度 同窓会会計決算報告

	摘 要	令和3年度決算
	令和2年度より 繰越金	16,687,395
収入の部	32期生 終身会費(中学)	28,000
	38期生 終身会費(高校)	1,255,000
	利 子	19
	合 計	17,970,414
支出の部	会報「光輝」印刷代	407,143
	会報宛名台紙印刷・封筒・封入・発送代	1,121,353
	学校へオゾンスト寄贈(コロナ感染予防対策として)	165,880
	同窓会HPメンテナンス・維持費	55,880
	第94回選抜高校野球大会出場案内ハガキ印刷料	677,560
	合 計	2,427,816
	R4年度へ 繰越金	15,542,598
	定期預金残高	4,886,285

会計 小澤 直美

会計 濱田 幸美

令和3年度決算は、以上の通り相違ありません。

会計監査 阿知波 善之



むらかみなおき
 こんにちは、金光大阪高校21期の村上尚輝です。
 在学中は、ラグビー部に
 所属していました。
 3年最後の大会では金光初のベスト8まで残ったのを
 覚えています。
 友達との遊ぶ時間が一番楽しかったですね。
 今年の春の甲子園では、後輩たちの活躍をドキドキ
 しながら応援していました。
 卒業生として誇りに思います。
 現在、大阪の心斎橋で「Bar Salud」というお店をしています。
 アットホームな雰囲気の中でお酒を楽しんでもらえる空間になっています。
 おススメは patron です。テキーアですが、口あたりがよくスッキリ飲めると評判です。
 良かったら一度お越しください!!
 「卒業生です」と言ってもらえたら「ドリンク一杯」をサービス致します。
 スタッフ一同お待ちしております。



Bar Salud(バーサルー)

〒542-0083
 大阪市中央区東心斎橋2-5-19
 営業時間 21:00 ~ 5:00

連絡先
 ☎090-6058-9865



役員紹介

3期生 八木 道徳 やぎ みちのり

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。丹羽晃前会長の時から副会長を務めさせて頂いております、三期卒業の八木道徳です。

京都府南丹市八木町に住んでおり、苗字が八木、おまけに1月11日生まれの子羊座で、「どんだけヤギが好きやねん！」って高校時代突っ込まれていました。笑

金光教の教会に生まれた私は、金光教の学校が高槻にできたことを知り金光第二高等学校に進学しました。片道約2時間かけての通学、友達が入りもいない中での学校生活に不安はありましたが、気付けば友達もたくさんでき、何より先生方と生徒との距離の近さが学校生活をとても楽しいものにしてくれたと思います。

私たちが入学して初めて3学年が揃い、体育館や食堂等の施設も整いました。食堂で人気のあった玉子丼（通称げ〇丼）、体育の授業でグラウンドの土の中からゴルフボールを見つけたこと、エッサッサの朝練等とても懐かしく思い出されます。

卒業してから疎遠になっていた同級生達と「同窓会発足30周年記念祝賀会」（平成26年12月）で再会したのをきっかけに、交流が今も続いています。皆で集まると、高校時代の話題に花が咲きます。「どうしてみんな金光が好きなんやろ？」と疑問に思い、当時お世話になった先生に聞いてみました。「開校したばかりで、これからの学校を良くしていく為に、教師も真剣に愛情をもって生徒に接していたからなあ…」と言われ納得しました。

私には3人の息子がいますが、3人とも金光大阪に入学し野球部でお世話になりました。この春の甲子園で、勝利の校歌が歌えた感動は忘れることができません。これからも愛する母校の発展を願って、お役に立てることを喜びとして頑張りたいと思います。今後とも同窓会にご理解とご協力を頂き、皆さんと一緒に金光大阪を盛り上げていきたいと思っています。



入学式で新入生代表挨拶

祝！ 悲願の初勝利！

甲子園



その名ぞ～
金光大阪高等学校～♪

第九十四回選抜高校野球大会に母校が出場し、ベスト8進出しました。
写真は(A)(E)面に掲載しています



編集後記

収束の兆しはまだ見えない
コロナ禍での生活も三年目に入り、マスクで過ごす毎日にもようやく慣れてきました。
さて、今年は金光大阪開校四十周年のお年柄の年です。その節目の年に、長年の悲願であった甲子園初勝利をあげることでできました。

制限がある中、応援のため金光大阪に縁のある多くの方たちが甲子園に足を運んで下さり、野球部員・マネージャーを始めそのご家族の方、監督、先生方、在校生や卒業生、学校関係者の方々の祈り添いのおかげで勝ち上がることができました。

これが昨年や一昨年なら、現地で応援することも叶わず悔しい寂しい思いをしたでしょう。記念の年の出場など色々な奇跡が重なったこと、これまでの皆さんの強い願い・思いで実現できたのだと思います。

開校四十周年の次は、再来年の同窓会発足四十周年が控えています。

前回の三十周年のように盛大に開催できるかはわかりませんが、以前のように当たり前に顔を見ながら昔話に花を咲かせ、より良い時間を一緒に過ごせる生活が戻ってきているよう願います。

最後に、甲子園出場に当たり寄付を下された方々、本当にありがとうございます。野球部に限らず活躍する各部のために、今後も今回同様の温かいご支援を賜りますようお願い致します。
(小澤)